

ふりがな

ふかさわ ひでたか

氏名

深澤 英隆

1. 学歴 [大学学部卒以降]

- 1980年3月 東京外国語大学外国語学部インド・パーキスタン語科（ヒンディー語）卒業
1980年4月 東京大学大学院人文科学研究科宗教学・宗教史学専門修士課程入学
1983年3月 同課程終了
1983年4月 東京大学大学院人文科学研究科宗教学・宗教史学専門博士課程進学
1985年10月 同課程休学、マールブルク大学神学部および非ヨーロッパ言語・文化学部留学（DAAD 奨学生）
1987年9月 帰国
1988年3月 東京大学大学院博士課程単位取得退学

2. 職歴・研究歴

- 1988年4月 東京大学文学部宗教学研究室助手
1995年4月 一橋大学社会学部助教授
1999年4月 一橋大学社会学部教授
2000年4月 一橋大学大学院社会学研究科教授に配置替え
2003年4-6月 ミュンヘン大学／ベルリン自由大学客員研究員

3. 学内教育活動

(A) 主な担当講義名

(a) 学部学生向け

宗教社会学I、宗教社会学II、社会構造論、社会変動論、社会研究入門ゼミ、
導入ゼミI、導入ゼミII

(b) 大学院

社会学、社会科学研究の基礎

(B) ゼミナール

学部後期、大学院

4. 主な研究テーマ

- 近代宗教経験概念の生成と「宗教経験からの論証」の思想史的・分析哲学的な解明
- 19世紀末のドイツ社会における宗教、ことに脱教會的な「知識人宗教」の運動群、とりわけ反キリスト教的なドイツ民族主義宗教運動の歴史的・思想史的研究
- ゲオルク・ジンメルGeorg Simmelの宗教社会学・宗教哲学的業績の解明
- 宗教的なものと視覚文化との関係、ことにフィドゥスFiedus、ファーレンクロークFahrenkrookといった20世紀前半のドイツの民族主義宗教運動とその視覚表現の問題
- ポスト近代的・ポスト世俗的などと呼ばれる潮流に属する現代の宗教哲学・哲学的神学の批判的検討。流動的な現代社会における「宗教」の可能性と限界を思考することそのもののメタ研究。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

- ・黄冠閔・呂政倚編『宗教與啓蒙』(共著)、中央研究院 中國文哲研究所(台湾), 2020, (分担部分:「近現代宗教論述の展開—宗教之政治性(Politics)與詩性(Poetifcs)再考」, 351-381)。
- ・深澤英隆他編『越境する宗教史 上下』(共編著), リトン, 2020, (分担部分: 下巻序文および論文「『宗教芸術』と『芸術宗教』—宗教と芸術の境界域」, 1-4, 193-216)。
- ・平藤喜久子編『ファシズムと聖なるもの/古代的なるもの』(共著), 北海道大学出版会, 2020 (分担部分: 第9章「表象し得ぬ『古代』の表象—ドイツ・プレファシズムにおける視覚文化」, 197-218)。
- ・鎌田東二編『スピリチュアリティと宗教』(共著), ビイグ・ネット・プレス, 2016, (分担部分:「美的モデルネ・民族主義・スピリチュアリティ—L・ファーレンクロークをめぐる」 92-129)。
- ・市川裕編『世界の宗教といかに向き合うか』(共著) 聖公会出版, 2014, (分担部分:「ドイツ民族主義宗教運動という主題」, 38-52)。
- ・鶴岡賀雄・深澤英隆編『スピリチュアリティの宗教史 上下』(共編著), リトン, 2010/2012 (分担部分: 下巻「生の形成者としての死—ジンメルが生/不死性論」, 287-312)。
- ・竹沢尚一郎編『宗教とファシズム』(共著), 水声社, 2010 (分担部分:「宗教的プレ・ファシズムと宗教の『拒絶』—フィドゥスの場合」 125-159)。
- ・足羽與志子他編『平和と和解の思想をたずねて』(共著), 大月書店, 2010 (分担部分:「争闘と平和のヴィジョン—フェルキッシュ宗教運動における『非平和』の思想」 219-245)。
- ・市川裕・松村一男・渡辺和子編『宗教史とは何か』(共著), リトン, 2009 (分担部分:「ドイツ・フェルキッシュ宗教運動における宗教史理解」 241-276)。
- ・『宗教学文献事典』(共編著), 弘文堂, 2007。
- ・『啓蒙と靈性』, 岩波書店, 2006。
- ・細田あや子・渡辺和子編『異界の交錯』(共著), リトン, 2006, (分担部分:「異界としての建築—フィドゥスの『神殿建築』の構想」 447-464)。
- ・竹沢尚一郎編『宗教とモダニティ』(共著), 世界思想社, 2006, (分担部分: 第3章「流浪する宗教性—ジンメル宗教論とドイツ近代の宗教状況」 107-156)。
- ・『岩波講座宗教 I 宗教とはなにか』(共著), 岩波書店, 2004 (分担部分: 序章「『宗教』の生誕—近代宗教概念の生成と呪縛」 23-54)。
- ・『近代日本における知識人と宗教—姉崎正治の軌跡』(共編著), 東京堂書店, 2003。
- ・島藺進・鶴岡賀雄編『<宗教>再考』(共著), ペリかん社, 2003(分担部分:「『宗教』概念と『宗教言説』の現在」 15-40)。
- ・渡辺和子・松村一男編『世界の太陽信仰 下』(共著), リトン, 2002 (分担部分:「『ポスト・キリスト教』時代の『太陽』—D・キューピットのポスト近代主義的『太陽倫理』をめぐる」 317-339)。
- ・樺山紘一他編集『20世紀の定義 第5巻』(共著), 岩波書店, 2001 (分担部分:「伴走する影—対抗科学と『靈性』探究の夢」 137-161)。
- ・大貫隆他編『グノーシス 異端と近代』(共著), 岩波書店, 2001 (分担部分:「ルドルフ・シュタイナーとグノーシス主義」 307-320)。
- ・島藺進・西平直編『宗教心理の探究』(共著), 東京大学出版会, 2001 (分担部分:「『心理(学)主義』的宗教理解の帰趨—ジンメル宗教論と心理(学)主義批判をめぐる」 241-262)。
- ・Heinz Robert Schlette (Hg.) *Religionskritik in interkultureller und interreligiöser Sicht*, (共著), Borengaesser, 1998 (分担

部分：“Religionskritik im Kontext”, 85-100) .

- ・鎌田繁・市川裕編『聖典と人間』（共著），大明堂, 1998（分担部分：「創出される聖典——O・S・ロイターの『エツダの謎』の解釈学」123-145）.
- ・渡辺重範編『ドイツ・ハンドブック』（共著），早稲田大学出版会, 1997（分担部分：「宗教—現代ドイツ社会と宗教」）.
- ・小岸昭他編『ファシズムの想像力——歴史と記憶の比較文化論的研究』（共著），人文書院, 1997（分担部分：「ゲルマン主義宗教運動の生成と挫折—E・ベルクマンの宗教構想とナチズム」423-445）.
・『世界の宗教と教典』（共著），自由国民社, 1996（分担部分：「宗教と科学の諸世紀——『ニューエイジ』と近代」）.
- ・月本昭男編『創成神話の研究』（共著），リトン, 1996（分担部分：「近世キリスト教自然哲学の創世観——『創世の秘義』の創世記解釈をめぐって」）.
- ・脇本平也・柳川啓一編『現代宗教学』（共著），第1巻，東京大学出版会，1992（分担部分：「『体験』と『伝統』——近年の神秘主義論争に寄せて」115-142）.
- ・島蘭進・鶴岡賀雄編『宗教の言葉』（共著）大明堂、1993，（分担部分：「宗教言語の『生誕』—カール・アルプレヒトの言語実践をめぐって—」85-117）.
- ・谷口茂編『宗教における罪悪の問題』（共著），山本書店，1991（分担部分：「悪のミュトスと悪のロゴス—ベーム・シェリング的テーマ」95-150）.
- ・田丸徳善編『日本の宗教学説2』（共著）東京大学宗教学研究室，1986，（分担部分：「宗教学における心理主義・心理学主義の問題」，63-84）.
- ・田丸徳善編『日本の宗教学説』（共著）東京大学宗教学研究室，1983，分担部分：「宗教学史の中の羽多野精一」36-50）.

(b) 論文

- ・「哲学的主題としての死後生の問題—I. H. フィヒテの場合—」『死生学年報』，リトン，2020, 49-70.
* 「哲学的宗教言説の帰趨」『哲学』 通巻68号，日本哲学会, 2017, 65-80.
- * 「『脱宗教』時代の『宗教』— シュライアマハーおよびジンメル時代の診断」『宗教哲学研究』 通巻32号，宗教哲学会, 2015, 1-16.
- ・「宗教経験論と脱文脈化：シュライアマハー『宗教について』をめぐって」『一橋社会科学』 通巻7（別冊）号，一橋大学大学院社会学研究科, 2015, 97-214.
- ・「無への転生——ショーペンハウアーの死後生論」『死生学年報』 通巻9号, 2013, 東洋英和女子大学死生学研究所, 105-129.
- * 「近代日本における宗教経験をめぐる言説—綱島梁川の経験報告とその意味」『宗教哲学研究』 第23号，北樹出版, 2007, 1-15.
- ・「現代社会における宗教知と科学知」『日本の科学者』 通巻42巻1号，日本科学者会議 2007, 30-35.
- ・「日本の『霊性的知識人』をめぐる二著作」（書評論文）『宗教と社会』 通巻10号, 2004, 105-116.
- ・“Die Aum Shinrikyo und die Gewalt—Logik, Realitaet und Zufall, *Orientalwissenschaftliche Hefte*, 2003.
- ・「ヨーロッパと『宗教』——ドイツ民族主義宗教運動から見る」『別冊 環』，藤原書店，2002, 78-84.
- ・“Die ‘spirituelle Welt’ (Seishin Sekai) Japans – Einführung und Auseinander-setzung”, Hilaria Gösmann, Andreas Mrugalla (Hgg.) *Deutschsprachiger Japanologentag in Trier 1999* (Bd. 1, *Geschichte, Geistesgeschichte/Religionen, Gesellschaft, Politik, Recht, Wirtschaft*), LIT Verlag, 2001, 647-660.
- ・「異界の『実在問題』—浅野・姉崎論争とそのコンテクスト」『文学』, 2-6, 岩波書店, 2001, 11-15.
- ・「宗教／宗教研究の『臨界』？——プラグマティックな継続と反省性の浸食」, 『宗教と社会』 第7号, 2001,

222-228.

- ・「宗教的生形式と宗教の正当化——英米宗教哲学のコンステレーション (1)」『一橋大学研究年報 社会学研究』 通巻 37 号, 2000. 123-170.
- ・「宗教批判と社会」『創文』 通巻 377 号, 1996, 1-5.
- ・「『神秘主義論争』における体験・個人・共同体」『一橋大学研究年報 社会学研究』 通巻 35 号, 1996, 139-190.
- ・「啓蒙とイロニーの間で——宗教研究と批判的思考をめぐる」『一橋論叢』 通巻 115 号, 1996, 50-65.
- ・「宗教学と政治神学の『拒絶』——ゲルマン主義宗教学の帰趨」『現代思想』 第 23 巻第 10 号, 1995, 194-211.
- * 「宗教経験と宗教の基礎づけ主義の問題——W・P・アルストンの宗教経験論の意味するもの」『宗教研究』 通巻 69 号, 1995, 1-24.
- ・「『宗教経験からの論証』と概念相対論」『東京大学宗教学年報』 通巻 12 号, 1994, 101-118.
- * 「『ポスト近代的宗教性』の条件?——ジンメルとキューピットをめぐる」『宗教研究』 通巻 329 号, 1994, 51-74.
- ・「回心論と宗教心理学の『物語』」『季刊 AZ』 通巻 32 号, 1994, 44-52.
- ・「敬虔主義と近代宗教経験概念の『起源』」『東京大学宗教学年報』 第 10 号, 東京大学宗教学研究室, 1993, 113-132.
- ・「ドイツ宗教学と民族主義の問題——『宗教学アルヒーフ』の運命」『東京大学宗教学年報』 第 8 号, 1991, 91-111.
- 「ロマン主義心理学のパラダイム」『ユング研究』 第 2 号, 名著出版会, 1991, 62-81.
- ・「宗教学とその外部——ヴァールデンブルクの近著, および宗教学基礎理論に関するその他のドイツ語文献を巡って」『東京大学宗教学年報』 第 6 号, 東京大学宗教学研究室, 1988, 101-115.
- * 「聖典解釈の力学——ヤコブ・ベーメの創世記解釈をめぐる」『宗教研究』 第 273 号, 1987, 111-139.
- ・「ヤコブ・ベーメにおける宗教言語の諸機能」『東京大学宗教学年報』 第 2 号, 東京大学宗教学研究室, 1985, 66-85.

(c) 翻訳

- ・フリードリヒ・ハイラー著『祈り』(原著: Friedrich Heiler, *Das Gebet*, Ernst Reinhardt, München, 1923, ドイツ語), 深澤英隆監修, 国書刊行会, 2018.
- ・リゼット・ゲーパルト『現代日本のスピリチュアリティ』(共訳)(原著: Lisette Gebhardt, *Japans Neue Spiritualität*, Harrassowitz, Wiesbaden, 2001, ドイツ語), 岩波書店, 2013.
- ・ミルチャ・エリアーデ『世界宗教史 別巻』(共訳)(原著: Mircea Eliade, *Geschichte der religiösen Ideen*, Herder, 1983 ドイツ語), 筑摩書房, 1998
- ・マリー・ルイーゼ・ズィリング著「フランソワ・ルーアン——その作品のためのいくつかの参照点」(ドイツ語)『Francis Rouan 展』, セゾン美術館, 1997
- ・井筒俊彦他監修, エルンスト・ベンツ他著『エラノス叢書 8 言葉と語り』(共訳, ドイツ語), 平凡社, 1991

(d) その他

- ・(書評)「渡辺優著『ジャン=ジョゼフ・スュラン——七世紀フランス神秘主義の光芒』(慶應大学出版会, 2016)」, 『宗教研究』 第 92 巻, 日本宗教学会, 2018, 469-475.
- ・(書評)「櫻井義秀編著『カルトとスピリチュアリティ——現代日本における「救い」と「癒し」のゆくえ』(叢書 現代社会のフロンティア 13, ミネルヴァ書房)」, 『宗教研究』 第 85 巻, 日本宗教学会, 2011, 756-763.
- ・(書評)「Hiroshi Kubota, *Religionswissenschaftliche Religiosität und Religionsgründung. Jakob Wilhelm Hauer im Kontext des Freien Protestantismus* (Peter Lang, 2005)」, 『宗教研究』 第 83 巻第 3 号, 2009, 980-98

- ・「姉崎正治の ERE 資料関連資料をめぐって」『日本女子大学総合研究所ニュース』第 7 号、2000、16-22.
- ・(書評)「増澤知子著『夢の時を求めて—宗教の起源の探求』中村圭志訳、玉川大学出版会、1999」『思想』、905 号、1999、140-143.
- ・「ポスト・モダンティーンと宗教的思考をめぐって」『金光教学』第 38 号、金光教教学研究所、1997、83-115.
- ・(書評)「島藺進著『精神世界のゆくえ—現代世界と新靈性運動』東京堂出版、1996」、『宗教研究』第 71 卷、日本宗教学会、1997、186-193.
- ・「神体験のミュトスとロゴス」『月刊アーガマ』、1990、136-146.
- ・「(書評) M. Pilger/S. Rink (Hgg.), *Zwischen den Zeiten. New Age in der Diskussion*」『東京大学宗教学年報』第 7 号、東京大学宗教学研究室、1989、185-189.
- ・「(書評) Phillip C. Almond, *Mystical Experience and Religious Doctrine*」『東京大学宗教学年報』第 2 号、東京大学宗教学研究室、1984、63-65.

B. 本研究科着任後の研究活動（着任 1995 年）

(a) 国内外学会発表

- * 「哲学的主題としての死後生の問題—19 世紀ドイツ、そして現代」、死生学研究所第 8 回連続講座、2020.1、東洋英和女学院.
- ・「宗教への拒絶と宗教のミメシス—シュルレアリスムの場合—」、日本宗教学会第 78 回学術大会、2019.9、帝京科学大学.
- * 「「芸術宗教」から「宗教芸術」へ —ドイツ民族主義宗教運動における美学的なるもの—」、テュービンゲン大学・立教大学第 2 回国際ワークショップ諸〈国民文化〉—国際的文脈における日独の視点、2019.3、立教大学池袋キャンパス.
- * 「脱伝統の可能性と不可能性：ジンメル宗教論の諸相」、京都ユダヤ思想学会、2019.11、慶應義塾大学日吉校舎.
- ・「ドイツ民族主義宗教における美学的なるもの」、日本宗教学会第 77 回学術大会、2018.9、大谷大学.
- ・「表象しえぬ古代の表象——ドイツ・プレファシズム期における視覚文化——」、日本宗教学会第 76 回学術大会、2017.9、東京大学.
- * 「哲学的宗教言説の帰趨—概要と補遺—」、日本哲学会、2017.5、一橋大学.
- * 「近現代における宗教言説の展開——宗教のポリティックスとポエティックス再考」、「近代啓蒙脈絡中的思想論争」研討會、2015.11、中央研究院中國文哲研究所（台湾・台北市）.
- ・”Georg Simmel and the Paradoxes of the *Intellektuellenreligion*“, XXIth International Association for the History of Religion World Congress, 2015.8, University of Erfurt.
- ・「ドイツ民族主義宗教運動における神話表象」、日本宗教学会第 72 回学術大会、2013.9、國學院大学.
- ・「『自然的救済論／救済論的自然』の概念」、日本宗教学会第 71 回学術大会、2012.9、皇学館大学.
- * 「自然と救済をめぐる闘争—— Kult・レーゼとドイツ民族主義宗教運動」、シンポジウム「宗教的なるものと文化保守主義—日本並びにドイツの変容する社会における宗教の文化的機能（第二部）」立教・テュービンゲン国際シンポジウム、2012.9、立教大学.
- * “‘Visuelle Pietät’” in der völkischen Religiosität: die Interferenz von Kunst, Politik und Religion im Falle des Malers Fidus”, *Das Religiöse und der kulturelle Konservatismus. Zur kulturellen Funktion der Religionen in den sich wandelnden Gesellschaften Deutschlands und Japans*, 2011.11, Universität Tübingen.
- ・「『生の宗教』の出現——ジンメル『宗教』の改訂をめぐって」、日本宗教学会、第 70 回学術大会、2011.9、関西学院大学.

- ・「宗教的プレファシズムの位置づけを巡って」, 日本宗教学会第 69 回学術大会, 2010.9, 東洋大学.
- ・“Creating the Presence of a Religious Past—Ludwig Fahrenkrog on the History of Religion”, XXth International Association for the History of Religion World Congress, 2010.8, University of Toronto.
- ・「ドイツ民族主義宗教運動における『解釈的同化』の問題」, 日本宗教学会第 67 回学術大会, 2008.9, 筑波大学.
- ・「『知識人宗教』の概念の生成と射程」, 日本宗教学会第 66 回学術大会, 2007.9, 立正大学.
- ・「生の形成者としての死——ジンメル之死／不死性論」, 日本宗教学会第 65 回学術大会, 2006.9, 東北大学.
- ・“The Future of Religion: The Topos of the Intellectual Construction of Religion – Simmel and Anesaki on the Future Shape of Religion”, XIXth International Association for the History of Religion World Congress, 2005.3, 高輪プリンスホテル.
- * “Der Diskurs über die religiöse Erfahrung im modernen Japan—Die Kontroverse über den <Erlebnisbericht> Tunashima Ryosens”, Graduiertenkolleg: Der Erfahrungsbegriff in der europäischen Religion und Religionstheorie und sein Einfluss auf das Selbstverständnis außereuropäischer Religionen, 2004, Hochschule für Philosophie - Philosophische Fakultät SJ, München, Germany.
- * “Der Topos ‘Gewalt und Religion’”, Symposium “Religion und Gewalt”, 2002, Orientwissenschaftliches Zentrum in Jena, Germany.
- * 「宗教／宗教研究の『臨界』——プラグマティックな継続と反省性の浸食」, 宗教と社会学会第 8 回学術大会シンポジウム「宗教の<臨界>——混沌たる現代宗教への研究視座——」, 2001
- ・“From Cultural Construction to Cultural Criticism. Masaharu Anesaki’s Theory of Religion”, XVIIIth Quinquennial Congress of the International Association for the History of Religion in Durban, 2000, South Africa
- ・“Seishin Sekai’ in Japan -- Einführung und Auseinandersetzung”, Deutschsprachiger Japanologentag in Trier, 1999
- ・“Cultural Criticism/Cultural Construction and Religious Research”, 50th Annual Meeting of the Association for Asian Studies, 1998, Washington DC
- ・「宗教学と『文化批判』をめぐる」, 日本宗教学会第 56 回学術大会, 1997, 慶應義塾大学.
- * “Religionskritik im Kontext.”, Religionskritik in interkultureller und interreligiöser Sicht, 1996, Graduiertenkolleg der Universität Bonn
- ・「メタ宗教批判の位相」, 日本宗教学会第 55 回学術大会, 1996.9, 國學院大学
- ・「啓蒙かイロニーか——宗教学と批判的思考のモチーフ」, 日本宗教学会第 54 回学術大会, 1995.9, 沖縄国際大学.

(b) 国内研究プロジェクト

- ・文部科学省科学研究費補助金「宗教理論の思想史的再検討を踏まえた現代的宗教思想研究の条件と可能性を巡る研究」(研究分担者), 文部科学省, 2019.4.1-2022.3.31
- ・文部科学省科学研究費 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)), 「日独近代化における〈国民文化〉と宗教性—学際的・国際的比較研究の基盤強化」(研究分担者), 文部科学省, 2018.10.1-2021.3.31
- ・文部科学省科学研究費補助金, 「ドイツ民族主義宗教運動と視覚文化をめぐる総合的研究」(研究代表者), 文部科学省, 2018.4.1-2020.3.31
- ・文部科学省科学研究費補助金, 「宗教思想研究の基礎概念再考—mysticism 及び関連概念の理論的・系譜学的研究」(研究分担者), 文部科学省, 2015.4.1-2017.3.31
- ・文部科学省科学研究費補助金, 「ファシズム期の古代理解に関する総合的研究」(研究分担者), 文部科学省, 2015.4.1-2017.3.31
- ・文部科学省科学研究費補助金, 「ゲオルク・ジンメル宗教論の時代文脈的研」(研究代表者), 文部科学省, 2014.4.1-2016.3.31

- ・文部科学省科学研究費補助金, 「ファシズムと宗教文化に関する地域・時代比較的综合研究」(研究代表者), 2011.4.1-2014.3.31
- ・文部科学省科学研究費補助金, 「『ドイツ民族主義宗教運動』の生成及び展開とその宗教史的意味に関する総合的研究」(研究分担者), 2009.4.1-2011.3.31
- ・文部科学省科学研究費補助金, 「近現代宗教論における『生の宗教』の系譜をめぐる時代比較的研究」(研究代表者), 2006.4.1-2008.3.31
- ・文部科学省科学研究費補助金, 「ファシズム期の宗教と宗教研究の国際的比較研究」(研究分担者), 文部科学省, 2006.4.1-2009.3.31
- ・文部科学省科学研究費補助金, 「現代世界における『宗教』研究の新動向をめぐる調査および検討」(研究分担者), 文部科学省, 2003
- ・文部省科学研究費補助金, 「『宗教言説』の生成と『宗教』の構築——『宗教経験』論と『未来の宗教』論を中心に」(研究代表者), 文部科学省, 2003
- ・文部省科学研究費補助金, 「19世紀末における宗教状況と宗教学・宗教社会学の文化的機能に関する比較研究」(研究代表者), 文部省, 1999-2000
- ・日本女子大学総合研究所助成金, 「姉崎正治関連資料の整理及び日本宗教学の生成史的研究」(研究分担者), 1998-2000
- ・文部省科学研究費補助金, 「近代的『宗教』概念と宗教学の形成と展開——日本を中心とした比較研究」(研究分担者), 文部省, 1998-2000
- ・文部省科学研究費補助金, 「近現代宗教思想における『自然的神性』の思想系譜に関する研究」(研究代表者), 文部省, 1996-1998
- ・文部省科学研究費補助金, 「世界の諸宗教文化における聖典と聖典解釈に関する総合的研究」(研究分担者), 文部省, 1995-1997

(c) 国際研究プロジェクト

Das Religiöse und der kulturelle Konservatismus. Zur kulturellen Funktion der Religionen in den sich wandelnden Gesellschaften Deutschlands und Japans, Universität Tübingen/Rikkyo-University. 2011-2022.

C. 受賞

- ・中村元賞(「敬虔主義と近代宗教経験概念の『起源』」他諸論文に対して), 宝積比較宗教・文化研究所, 1994.

6. 学内行政

(B) 学内委員会

大学院教育専門委員(2004年4月~2006年3月)

(C) 課外活動顧問

如意団顧問(2017年4月~2021年3月)

7. 学外活動

(a) 他大学非常勤講師など

1988年4月 明治学院大学文学部(2000年3月まで)

2005年4月 電気通信大学 連続講義・認識の問題 (2010年3月まで)

2007年10月 東京大学文学部 (2008年3月まで)

2009年10月 京都大学文学部 (2010年3月まで)

2013年10月 東京大学文学部 (2014年3月まで)

2017年10月 東北大学文学部 (2018年3月まで)

(b) 所属学会および学術活動

日本宗教学会 常務理事 (2010～) 理事(2004～2010) 評議員 (1998～2004)

宗教哲学会 理事 (2008～)

宗教と社会学会

日本社会学会

(c) 公開講座・市民講座

- ・「ナチズムは宗教だったのか?——ドイツ近代と宗教の運命——」みんぱくゼミナール「ヨーロッパのキリスト教とファシズム」, 国立民族学博物館, 2013.1.19.
- ・「現代社会の宗教～宗教による人々のつながりと断絶」2008年度一橋大学社会学部連続市民講座第3回. 2008.6.21

(d) 高校生向け出張講義・模擬講義

- ・「グローバル化と宗教の現在」, 河合塾文化講演会, 河合塾名駅校, 2008.7.8.

(e) その他 (公的機関・各種団体・民間企業等における講演等)

- ・「ポスト・モダンティニーと宗教的思考をめぐって」第36回教学研究会講演, 金光教教学研究所, 1997.7.11.

9. 一般的言論活動

- ・「宗教批判と社会」『創文』, 創文社, 1996, 1-5.
- ・「『知的中間層』と宗教」『Aera Mook 11 宗教学がわかる』, 朝日新聞社, 1995, 161-165.
- ・「『神秘主義論争』の意味するもの」『創文』, 創文社, 1992, 6-10.
- ・「T・レイターマン他著『人民寺院』(書評)」『朝日ジャーナル』, 朝日新聞社, 1992.1.31, 62-64.
- ・「島田裕巳『戒名』(書評)」『朝日ジャーナル』, 朝日新聞社, 1991.10.11, 62-63.
- ・「M・エリアーデ『世界宗教史』(書評)」, 『朝日ジャーナル』, 朝日新聞社, 1991.9.13, 62-63.
- ・Dynamik einer Zeremonie. Einige Bemerkungen zum Begräbnis des japanischen Kaisers Hirohito, *Spirita. Zeitschrift für Religionswissenschaft*, 3. Jg. Nr. 2, Diagonal Verlag, Marburg, 1989.